



### 熊本県伝統的工芸品指定 マークの募集について

熊本県では、県内の伝統的工芸品の振興を図るため、熊本県伝統的工芸品の指定を受けた品及び容器包装等に、県の指定マークを付けて販売できることとしました。この指定マークを公募します。

- ▽締切日——昭和53年7月31日必着
- ▽賞——優秀作(3点以内)各3万円
- ▽発表——昭和53年9月末予定
- ▽指定マークを貼付できる工芸品——

### 熊本県立美術館 展覧会案内

展覧会名	内容	開催期間
アルフォンシニャ展	アルフォンシニャの展覧会。優美な作品で知られるアルフォンシニャの作品など約400点を展覧。	7月7日から7月23日まで
熊本県美術家連盟展	第3回会員展	7月25日から7月30日まで
マナブ・マベ展	本県出身でブラジル在住の異色ある国際画家マナブ・マベの画展を展示。	8月5日から8月27日まで
熊本美術科同窓会展	第2回展 絵画・彫刻・工芸・デザイン	8月30日から9月3日まで
富岡鉄斎展	近代日本画史に輝く巨匠富岡鉄斎の作品	9月1日から9月24日まで
毎日書道展	第30回展 入選作 500点	9月5日から9月17日まで
熊日総合美術展	第33回展 絵画・彫刻・工芸	9月23日から10月3日まで
熊本美術 肥後の金工展	熊本美術第3回展 近世熊本伝統工芸の白眉、肥後の金工の展覧。	9月30日から10月29日まで
マリノ・マリニニ展	現代彫刻の第一人者イタリアのマリノ・マリニニの代表作のほか彫刻・版画など200点。	10月7日から11月5日まで
永青文庫の明清絵画	永青文庫展	11月2日から12月3日まで
国立西洋美術館名品展	松方コレクションを中心とする国立西洋美術館の名品展。ロダンの「ドグ」セザンヌはほか。	11月8日から12月10日まで
熊日書道展	第19回展	12月13日から12月19日まで
ピカソヤガール展		1月5日から1月28日まで
肉筆浮世絵展	ハタリコレクションによる、北斎、広重など桃山-江戸時代の肉筆浮世絵300点の展覧。	1月13日から1月28日まで
収蔵品展	(5月-8月) 別館 (12月-1月) 別館 (2月-3月) 別館	実技講座 1月-12月 講師デッサン 4月-11月 工芸講座 2月-3月 彫刻・別館

## 民話



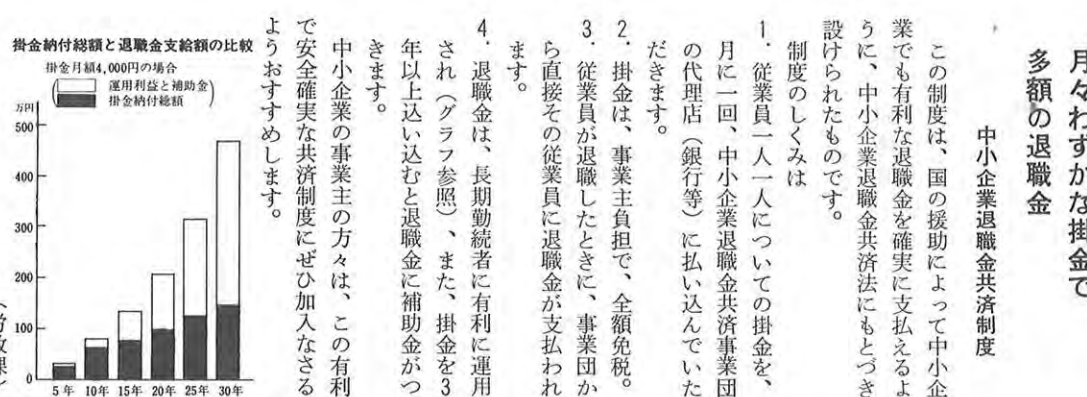
### 熊しやんの大鉄砲

上益城郡甲佐町上豊内  
村上敏男

昔、甲佐の里に、熊しやんと言う鉄砲射ちの名人がいました。ある日、熊しやんは寒野の平太郎堤に鴨射ちに出かけました。晝間をついでの払暁戦です。抜き足さし足で堤に近寄り、水面を覗くと、鴨が十二羽への字に浮かんでいました。「しめた。」と熊しやんは、ねらいをつけて一番手近の鴨に照準をつけました。が、「待てよ後の十一羽も。」と考へ、鉄砲の銃身をへの字に、踏み曲げて射ちました。弾丸は一番近い鴨の首を射ち抜き、二番三番と貫通し十二番目の首を射貫いて、堤の栓の上に甲羅干しに上っていた亀の甲羅をも射ち剥がして、折悪く水呑みにきて帰りがけた狸のお尻に命中しました。びっくり仰天した狸は、盲管銃創を受けて後足が叶いません。前足で懸命に崖を登ろうと腕をきます。するとどうでしょう。崖が崩れて、山芋が一

貫奴(三・七五kg)掘り出されました。そこで熊しやんは急いで狸を取り押え、縄で縛りました。一貫奴の山芋を、すすきの葉で包もうと思ひ、こんもりと繁った叢を鎌で「ザクリ。」と切り落と、叢の中に雁が巣をかけて卵を温めていたところでした。草と一緒に雁首を切られた雁の下には、卵が七つもありません。熊しやんは、これらの収穫をまとめ、一本の山おこに、前後にぶら下げて帰途につきます。行手に谷川があり、一本橋の丸太をフラフラしながら渡ります。あと一歩という時足もとがグラつき、谷川に落ちてしまいました。「こんなに大真、まるで夢のようだ。」と、我に返ると、股くらがムズムズするのでサーッと立ち上りました。寒さにこごえた小魚が、温かい熊しやんの股倉を「ぬくぬく」と勘違いして集まっていたのです。それを急に立ち上られたので、小魚は逃げる間もありません。一網打尽に、へこの中に収まりこんでしまいました。熊しやんが放った、たった一発の鉄砲が、かくの如き大真をもたらしました。甲佐では、これから思いの外の儲けがあったときは、「大鉄砲うった。」と言うようになりました。

※(文章中、「ぬくぬく」とありますがこれは川漁法の一つで川草やワラ等を集め川の溜りなどへそのワラ等を沈めそこを隠れ場所に小魚が集まるところを網で取る方法で、冬の魚であります)。



### 勢を制してまともな実行はままならぬものになろう。

また、最近では、小斧を一人で振り上げる仕草さへ怖いことが多くなった。斧が折れるだけでなく、蟻螂も蹴飛ばされるかも。

小さな事で恐縮だが、例えば、通学生が列車内で喫煙している。止めさせようと立ち上ったまでは良かったが、ふと、以前、大人が注意して学生に脅かされたことが思い出される。列車には、煙草の臭いが鼻に届いていないのか、雑誌に夢中の紳士も居るし、車掌さんだって気付かず、早足でとおりすぎていく。いつかは、注意したらすぐ煙草を捨ててくれたが、今日はどうかと下車駅が近づくと慌てて一言注意して降りてしまうのでは?

空缶を車から畑に投げ捨てる長髪の若者、その後続車から警告でもしようものなら、あるいは、ズドンとやられるかも。川にゴミを捨てているオバさんに一言注意しようものなら口下手で細腕の男ではへこまされてしまうのでは?

こんなとき振り向き勇気は、猫の首へ鈴をつけるより微細なものだ。美しい熊本づくりもささやかな勇気からかな? せめて、勇気のある人に加勢する蟻螂の蛮勇を結集する「ささやかな勇気」運動も必要になるのでは。

困るのは、全く我関せずでもっこすが、良か腕もって苦勞する(同前)とか言って斜視して過ごされることかな。

### ▽宛先

〒862 熊本市水前寺6丁目 18番1号  
熊本県商工労働水産部商政課  
「マーク募集係」  
電話0963(83)1111  
内線237112  
(商政課)

### もっこす

さすが火山国日本にはある。最近、地震も東北地方、山陰などと全国随所に起こるし、薄気味の悪いものである。まさか、小松左京の日本沈没みたいなことにはなるまいが。どうも気が小さいもっこす輩には、気象状況の異常さも気になり始め、何やら心細き今日この頃ではある。

果して、直下型の地震に突然襲われたら、火の始末など適切にできるのかな。周章狼狽、度を失い、足の踏むところを知らないことになる。戦争や大災害の体験の薄い人の大半は、少しぐらいの避難訓練では、やはり意気沮喪してしまうのでは。

うぶくれて、泡ぶくだけが残ってる(もっこす語彙)

このような天変地異に際しては、身を捨てて勇気をもって力を合わせるべきことはいくらでもない。自然現象には、どうにかこうにか多数の力が結果され、難儀を乗り越え対策もはかどることと思われ。ところが利害が相反する社会事象に対しては、勇気の出し方も異ってくるのではと近頃思えてきた。

その出さんとする勇気にしても、我々小市民のそれには限りがあり、蟻螂の斧ぐらいの力しかないようだ。それを出し惜しみしたら話もまともならぬし、例え大